



# しらす



## 全国各地のサーファー 十三湖に集う

8月16日～20日までの5日間十三湖において、全日本プロウインドサーフィン選手権大会(ドコモ十三湖レーシング2000)が開催され、全国各地のサーファーたちが十三湖に集結。ウインドサーフィンによるスピード感あふれるレースを展開しました。

(関連記事4ページ)

# 会浦市とふるさと地区関東

## 今年はお浦市で交流会

百五十名が参加し

にぎやかに

八月十二日(日)コミュニティセンターで関東地区ふるさと市浦交流会が開かれ、市浦会会員、地元参加者合わせて百五十人が参加しました。

三年ぶりの地元開催となった交流会では、高松村長が市浦市の現状報告とこれからの展望を含め会員にあいさつ。葛西孝市浦会会長の挨拶のあいさつに続き、工藤村議会議長の乾杯の音頭で交流会が始まりました。

今回の交流会では、少しでもふるさとの雰囲気味わってららおうと、料理にも工夫をこら



▲ふるさとの料理がなりました

して、ミズのつゆのやしじみ汁、しじみのバター炒め市浦特産の桃太郎トマトなどを用意しての交流会となり、参加者に喜ばれていました。

交流会では、同級生との再会やなつかしい会話などで参加者の笑い声が会場に響き渡り、十三の砂山踊りが披露されると、一層になって踊り出すほど盛り上がりを見せ、終始にぎやかに交流会が進められ、ふるさと市浦での交流会を満喫していました。



▲桃太郎トマト「最高〜！」



▲高松村長と記念写真

今後の活動に向けて  
活発な意見交換

交流会の前には、ふるさと市浦会と村の意見交換会がアスナールホールで行われました。

すめて行きたい」など、今後の活動に向け、活発な意見が交わられていました。

意見交換会には、市浦会から葛西会長はじめ十五人が、村からは高松村長ら十九人が出席しました。市浦会側からは、市浦会が結成されて交流という目的は第一段階、第二段階として市浦になにかお返しできる活動を展開するためにも、会員を増やしていきたい。」と、高松村長からは「交流をますます発展させるためにも、次の世代を担う子供たちの交流も検討し事業をす



▲活発な意見交換が行われました



▲「やいふるさとはいね」葛西会長(中)と伊南さん(左)

市浦には毎年帰郷している。やはり市浦に帰ってくると安心する。ふるさと市浦会の交流会には二回目の参加。地元での交流会は最高。



▲左が三和さん

三和 紀巳さん  
●相内出身  
●神奈川県南足柄市在住



▲右が奈良さん

奈良 儀一郎さん  
●太田出身  
●埼玉県越谷市在住

ふるさと市浦会の交流会には、よく参加している。市浦は空気がおもしろいし、なんともいえない。久し振りにきれいな星空を見ました。

今回は、市浦会の役員以外、磯松から唯一の参加です。やはり地元はいいですね。市浦会の交流会には一度も欠かさず参加しています。これからも市浦のために一生懸命がんばります。



成田 敏明さん  
●磯松出身  
●千葉県東津市在住

一年おきに帰郷している。市浦会には初めての参加です。同級生と昭和二十五年以来五十年ぶりに再会しすこくなつかしかった。ふるさとの料理もなつかしくおいしかったです。



▲右から二人目が池田さん

池田 幸子さん  
●十三出身  
●東京都江東区在住

三年ぶりに帰郷しました。市浦に帰ってくると昔に還れる気分です。今回の交流会の料理は昔のなつかしの料理、最高ですね。とてもおいしくいただきました。



▲左が野木さん

野木 定子さん  
●鹽元出身  
●東京都足立区在住

ふるさと市浦会交流会参加者のコメント



▲同級生が集まって「かんぱーい」



▲市浦会の役員の方は「半天」を肴用



▲「昔はね…」・「そうそう」



▲はいポーズ



▲最後は「しらら音頭」で

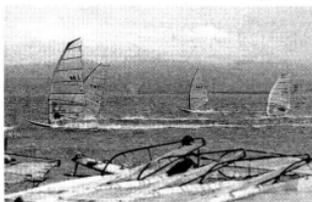
# 迫力のレースを展開

## 十三湖ドコモレーシング2000

**優勝賞金総額百五十万円をかけた  
全国のサーファーが市浦村に一堂に集う**

八月十六日から二十日までの五日間、十三湖において、ドコモレーシング二〇〇〇と称し、ウインドサーフィン、全国大会が開催され、沖縄県など全国各地から参加したウインドサーフィナーたち百名が技術とスピードを競いあいました。

この大会は、十三湖が夏でも風が吹きウインドサーフィンには絶好の場所であることから、関係者が「ぜひ市浦で全国大会を開催したい」という願いから今年度の開催が決ったものです。大会前日までは、十三湖はま



▲スピード感あふれるレースを展開

ったく風が吹かない状態で大大会に支障が出るのが心配されたものの、大会初日は好風の吹き、まさにサーフィンの日になりました。競技は、プロとアマチュアの部に分けて行われ、どちらの部門もスピード感あふれるハイレベルなレースが展開されていきました。

大会中日の十八日には、参加選手が集う歓迎レセプションも行われ、市浦特産の桃太郎トマトなどが振る舞われ喜ばれていました。今回選手として参加したテレビでおなじみの石丸謙二



▲競技説明を受ける参加選手たち

郎さんは「市浦村は最高。全国にこんな遊樂地があったとは知らなかった。軽井沢と比べても市浦が上」と話していました。大会は、事故もなく無事五日間の日程を消化、選手たちはお互いの健闘をたたえあっていた。

### 岩木川をカヌーで下る

#### 十三小学校岩木川カヌー下り

八月六日、十三小学校恒例の岩木川下りが行われました。十三小学校高学年と同校卒業生の中・高校生約三十名が参加しました。

この日は、風もなく絶好のスポーツ日和になりました。スタート前に鎮田元校長が「来年の小学校統合により今回の川下りは、最後の川下りです。十三小学校での最高の思い出をつくって下さい」と激励。生徒たちは、保護者たちの声援を受け、午前八時三十分には五所川原友好橋から十三湖をめざしてスタートしました。

途中で休憩や昼食をとりながら、川下りとなりましたが、生徒たちは、最後まで力を振り絞り、だれ一人リタイアすることなく、全員が十三湖へゴールしました。



▲「市浦は最高」と石丸さん(右)



▲十三小6年のみなさん



▲力をふり絞りがんばりました

# 三十二人が大人の仲間入り

## 平成十二年度 成人式

郷土に拓こうわれらの未来をテーマに、八月十四日(金)コミュニティセンターを会場に、平成十二年度成人式が行われました。

成人式には、昭和五十四年四月二日から昭和五十五年四月一日までに生まれた、対象者五十名のうち三十二名の新成人が出席し、親友との再会を喜びあっていました。

式典では、木村教育長が「二十世紀最後の成人となられる皆様、新しいスタート。決意を新たにしてがんばってください。」と式辞。高松村長が「二十世紀最後の新成人となる皆さんは、言い替えると「二十一世紀を担う世代でもある。地域社会に貢献して下さい。」と祝辞を述べました。

引き続き新成人を代表して、吉田咲子さんが「大人の自覚を持ち地域社会に貢献します。」と二十歳の区切りとしての誓いの言葉を述べました。

その後、新成人たちは、中学校時代の恩師たち、木村善一先生と、館山豊先生との「恩師と語るついで」をフリースタイルで行い、今だから言える中学時代の失敗談や将来の夢、近況報告などを恩師と語り合い、楽しい時間を過ごしていました。



▲参加者全員で記念撮影



▲笑顔いっぱいの新成人たち

### 新成人を代表して

吉田 咲子さん 相内 弘前東北女子大学三年生



〇いつも心がけていることは…  
「笑顔を決やさず、大きな声で。」

〇休みの過ごし方は…  
「友達と遊んだり、ショッピングです。」

〇村の好きな場所は…  
「海。特に脇元サマーハウス。」

〇今大切にしているものは…  
「父に買ったもらった愛車(セイバー)です。」

〇将来の夢は…  
「小学校の先生。」

〇新成人を代表して誓いの言葉を述べましたが…  
「少し緊張しましたが、自分では堂々と述べたつもりです。」

〇今したいこと(欲しいもの)は…  
「外車が欲しいです。」

〇好きな異性のタイプは…  
「やさしくてクールな人。」

〇最後に成人式を区切りにと大人になる…  
「あまえてばかりでなく、自分の行動に責任を持ちたい。」

「二十歳になったので、村の活動に積極的に参加して、若者の多い村になってくれればと思います。」  
ありがとうございました。

## 二十八年前、現在の校舎に引っ越し

### 思い出が詰まった校舎に最後の登校

#### 脇元小学校 昭和五十二年卒業生へ

今年もお盆を利用し村内各所でクラス会が開かれたようですが、その中でも今年度いっぱい、で統合される脇元小学校の昭和五十二年卒業生十七名が参加したクラス会では、恩師らとともに最後の登校を実現しました。

一年生時の昭和四十七年、自分たちが座る引越した旧校舎から運んで引っ越した思い出が詰まった校舎、中には、二十二年ぶりに校舎に入る卒業生もい

て、「統合になるほど子ども数が減っているとは思わなかった。」この校舎はどうなるの?とさみじまをかくせない様子。校舎では、音楽室で見つけたバトンを回してみたり、体育館では全員で校歌の斉唱をしたりと二十二年前にタイムスリップ。当時の恩師の神成テルさん、佐藤紀子さんからは、「学校は統合になっても脇元小学校でつくった大切な思い出を胸にこれか



▲22年ぶりに脇元小に登校したみなさん



## 手作りの夜店で暑さを吹っ飛ばせ

### アトム保育園で夕涼み会

アトム保育園で七月二十日夕涼み会が開かれました。夕涼み会にはアイスクリームやおでん、金魚すくいなど保育園手作りの夜店が並ぶなか、園児たちが景品やすくい上げた金魚をうれしそうにお母さんに見せ、夕暮れ前のひとときを楽しんでいました。



▲くじ引きは大騒動

踊りを披露、その後夜店で買い物をしたり、くじ引きをしたりと園児たちは、景品やすくい上げた金魚をうれしそうにお母さんに見せ、夕暮れ前のひとときを楽しんでいました。



▲園児全員で踊りを披露

## 訪問看護 指導車を購入

### 市浦診療所に配備

村では市浦診療所に訪問看護指導車を配備しました。

今後、家庭への訪問医療や訪問看護などに幅広く活用されることになっていきます。



▲訪問医療などに使用されます

## どうぞよろしく



ジョン・ローレンスさん

七月に市浦村に着任しました英語指導助手ジョン・ローレンスです。

市浦村のみなさんどうぞよろしくお願ひします。

見かけましたら、気軽に声をかけて下さい。

◎出身は？

カナダ、オンタリオ州、ミササガ市

◎趣味は？

自転車、野球、音楽、市浦村の好きなのは？

◎市浦村の好きな所は？

トリーサムグリーンパーク、市浦村のみなさんに一言

の人に会って、みんな優しく、親切で、緊張している

気持ちもなくなりました。これから市浦の人達との出会いは楽しみにしています。

市浦村に来て良かったです。

## 消防・ネットワーク

火事と救急・救助は一九番

## 小学生が庁舎見学を訪れる

七月五日に相内小学校の四年生十八人が市浦消防署の見学を訪れました。署内では、まず最初に一九番の説明から始め、通報が入った時の電話の受け答え

について、どこで場所、だれが(家族か友人など)、どうしたか(ケガの程度、体の痛い部分など)を順に説明し、生徒の皆さんは真剣な表情で聞いていました。次に仮眠室の説明にはいりました。仮眠室とは夜中の電話番の合間に仮眠をとる部屋で、緊急出動に備えて作業服を着たまま仮眠をとっている事などを説明。服を着たまま仮眠をする事に生徒たちはびっくりしていました。その後、食堂などを見学し、署長室にて署長講話を聞き、これまでの市浦消防署のあゆみについて触れ、近年の出動状況なども生徒の皆さんに説明しました。その後、車庫の見学をしました。生徒は車庫の見学を、順番に車を見ていき、この中에서도救急車においては生徒の皆さん全員が乗り込み、車内に装備されている資機材についての説明を受けました。その資機

たその



▶市浦消防署を訪れた相内小四年生のみなさん

材の中にあるモニターを使い生徒たちの血圧や脈拍を測定し、モニターに映し出されている自分の数値を食い入るように見ていました。その他、車内のマイクや無線機を実際に使って説明しました。最後は火事の際に着る防火服を生徒たち全員で着て、その重さを体験しました。

庁舎見学の際は、消防署に連絡を下さるようお願いしています。

庁舎見学の際は、消防署に連絡を下さるようお願いしています。

# ポラルメ

十三地区「御輿運行と流し踊り」



▲まつりだ「わっしょい」

今年も八月のお盆期間中、村内では夏まつりが行われ、「ねぶた運行」や「流し踊り」などで賑わいを見せ、残り少ない夏のひとときを楽しんでいました。  
各地区で行われた夏まつりの様子を写真で紹介します。



▲子どもみこし



▲こちらは子どもねぶた



▲「ぼくも出ようかな〜」



▲十三の砂山流し踊り



▲しじみ豊漁折願





▲虫送りも行われました

# 夏まつり

相内地区「ねぶた運行」



▲ビアガーデンで涼をとる



▲運行されたねぶた



▲ひたすら踊る



▲踊りの審査は厳しく



▲生バンド演奏「サーティレイク」のみなさん



◀第二町内会のねぶたも参加



▶富山大学の学生たちもまつりに参加し盛りあげてくれました



◀グリーンクラブのみなさん

## 健康増進施設について ~その11~



施設の名前が決まりました。その名は…

かい ゆう かん  
**「し~うらんど海遊館」**

2000年11月1日オープンです!!

ネーミングは 吉田幸子さん(相内)の応募作品に決定

健康増進施設ネーミング募集には、県内外71人から168点の応募がありました。審査の結果、当村相内の吉田幸子さんが応募した「し~うらんど海遊館」に決定しました。

この名前には、市浦村をローマ字に直すとSHIURAになります。そのSHI・U・RAを三つに分類。「SHI」は「SEA（シー）」で海を意味します。「U」は読み方で「ユー（湯）」、と湯（海水浴泉）をかけたもの。「RA」は「ランド」の頭文字となり、この三つの意味が込められています。

吉田さんには、「し~うらんど海遊館」オープ

ンの日に賞金が贈られることになっています。

誰でもが楽しみながら利用できる  
**「元気海プール」登場**

心地よい温海水の中のいろんなしかけを巡ることにより、知らず知らず効果的な運動ができてしまう不思議なプールです。

これなら一般の健康者から、泳げない人でも、体力に自信のない人も運動があまり好きでない人までも楽しく健康づくりができます。

おじいちゃん、おばあちゃんの寝たきり予防に



肩こりがひどい人



怪我の回復期に、後遺症の緩和に



体重が気になる人や生活習慣病予防に



なんとなく体調がよくない人…



温かな海水の中のふわふわとした感覚が気持ちいい。楽しみながら効果は抜群!

「元気海プール」はこんな人たちに最適です。

美容と健康を目指す人



運動不足やストレスを感じている人



最近風邪を引きやすい人



腰痛や慢性の痛みの緩和に



家族や友人との交流に



※「健康増進施設について」は今月号をもって終了させていただきます。

来月号からは「し~うらんど海遊館 元氣かい通信」として掲載いたします。

★し~うらんど海遊館、元気海プールに関するお問い合わせ 市浦村企画財政課企画広報係 ☎0173-62-2111まで

# 夏休みカナダ 海外生活に参加して

村では、二十一世紀の市浦村を築き支える国際性豊かな人づくりを行うために、少年少女夏休みカナダ海外生活(企画・東奥日報社)に参加する村内小・中学生に対し助成金を交付し、海外派遣事業を実施しました。

十三小学校六年生の本荘志織さんが参加し、七月二十五日から八月五日まで十二日間、カナダ海外生活の研修レポートを掲載いたします。

## 私の思い出 in Canada

十三小 六年  
本 荘 志 織

七月二十五日、青森空港からカナダに向かって出発しました。日本とバンクーバーの時差は、十六時間。成田空港から八時間三十分でカナダのバンクーバーに着きました。飛行機の中からとても大きな山が見えた時、「カナダだー」と思いました。この日からプリティッシュコロニア大学(以下UBC)での生活が始まりました。参加者は、二十二名、小学生は六名でなかなか友達が出来なくて少し不安でした。でも、三人の中学生の

おかげで私の不安はふっとびました。とても仲良くしてくれ、やさしくしてくれました。UBCは他に、中国、インドなどいろいろな国の小・中学生、日本からも徳島・長野・新潟などいろいろな所の小・中学生もサマースクールをしています。外国人とは、友達になれなかったけど、日本のいろいろな人と友達になりました。UBCとは、とても大きな大学です。特にキャンパスが広くて、車で回ると一日もかかるそうです。UBCの生活にはやぐなれて、カナダの文化を知ってから日本に帰りたいと思っていました。



▶アメリカとカナダの国境線にて

りません。授業は全部英語、それでもなんとなく分かります。とても楽しい授業でした。最後の日、修了書をわたされた。なんとともいえないくらい感激しました。午後は水泳やスタンレー公園、水族館見学、ショッピングをしました。カナダでは、どんな大都市にももちろん自然がありません。(カナダって「まじい!」と思いました。観光地はどこもとても楽しくて、もう一度行きたい所ばかりです。そして、知らない人ばっかり、「ハロー!」と話しかけたら、ちゃんと、「ハロー!」と、笑って返事をしてくれました。私の英語が通じた時、本当に感激しました。とっても気持ち良くて、うれしかったです。カナダの人たちは、どんな人にもあいつつ返してくれます。(私も、日本に帰ったらちゃんとあいつつできる人になろう。)

と思いました。六日間の中で、一番に残ったのはホームビジットです。ホームビジットは、ホームステイの日曜日のような感じ。家族と一日中、ゆつくりと過ごし、食事もし、しょしょに食べました。ホームビジットは、三人一組で行きました。心配だった言葉もなんとか通じ、日本からのおみやげも喜んでくれました。ちよつとカナダ人になった気持ちで、もう少しいっしょに生活してみたいと思います。ホームビジット先の家は、まるでおとぎの国から、ぬけ出して来たような家でした。



▶仲間とカナディアンロッキーズをバックに記念撮影する本荘さん(右から三人目)

八月一日から八月三日までは、パンフに行きました。パンフは、とっても寒い所でした。日本は真夏だというのに、バンクーバーは、春のような気候。そしてパンフは、秋と一緒にいた先生が、「青森の気温三十八度。」と教えた時、とても信じられま

せんでした。パンフはほとんど観光です。氷河や、湖を観光しました。景色がきれいで、とても感動しました。湖の近くにはリスがいて、とてもかわいかったです。パンフは、少ししかいなかったけど、バンクーバーよりも良い所でした。私は、初めての海外生活で、失敗も不安もたくさんありました。でも、いっしょに参加した仲間にはげまされ、助けられ、とってもいい体験が出来たと思います。そしてこの夏休みで、ひとまわりもふたまわりも大きくなれたと思います。また、ぜったい行きたいと思います。

# 平成十三年度 政府予算確保運動

## 県選出国会議員との懇談会

### ～十四省庁二十六項目を要望～



▶県選出国会議員との懇談会

青森県町村会では、七月二十七日(木)平成十三年度政府予算確保に係る各省庁への要望並びに県選出国会議員との懇談会を行った。懇談会には高松次郎(県町村会理事)も出席しました。

懇談会は、午前八時から東京都「赤坂プリンスホテル」で、津島厚生大臣、大島文部大臣、科学技術庁長官、木村代議士、石渡県東京事務所長等が出席して行われた。

はじめに菊池会長(川内町長)が、十四省庁二十六項目にわたる要望の実現に向けて支援を求める旨あいさつした。続いて、杉澤副会長(三戸町長)、成田副会長(尾上町長)、加藤副会長(小泊村長)が、運輸省、自治省、農林水産省、厚生省、建設省関係の重点要望についてそれぞれ説明した。

重点要望は東北新幹線、規制緩和後の地方バス路線の維持、普通交付税の町村への傾斜配分の強化、自治体病院の医師確保

問題など、特に町村に関りの深い事項となっている。

出席した津島、大島両大臣は「五十年ぶりに二人の人間となったが、県、市町村とのパイプが薄れないよう耳を傾けていきたい」、「大臣として県民に恩返ししたい」と述べた。

木村代議士からは青森空港の夜間騒音、むつ湾の汚染、三村議員からは医師確保、山崎参議院議員からは市町村合併などについて発言があった。

懇談会終了後、菊池会長は役員、政調各委員長十六人が四班に別れ、各省庁へ要望運動を行った。

多元生中継で、青森県の魅力を丸ごと全国に紹介!

## お～ゆニッポン

～今日はとことん青森県～

青森県内8か所からの生中継や、67全市町村からのメッセージにより、青森県の魅力をあますところなく放送されます。

ゲスト/眞の海さん、石塚実彦さん、細川ふみえさん、鈴木正幸さん、内館牧子さん、ほか

放送日:10月15日(日)NHK衛星第2/午前10時～午後7時

## 国民年金のコーナー

### 老齢基礎年金の繰り上げ

#### 請求は慎重に

国民年金の老齢基礎年金は六十五歳からの支給が原則ですが、希望すれば六十歳から六十四歳の人でも、繰り上げて受けることができます。

ただし、繰り上げて年金を受けると、六十五歳から受ける場合と比べて、次のような不利な点があります。

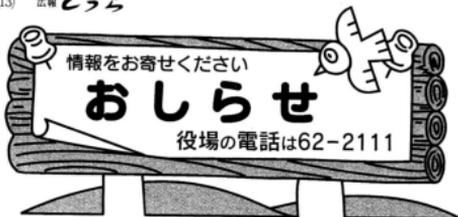
- ① 繰り上げ支給の申請をしたときの年齢によって、受ける年金が一定の割合で減額され、その率は六十五歳を過ぎても変わらないので、生涯減額された年金を受取ることとなります。
- ② 繰り上げて年金を受けると、繰り上げ支給の請求書は、一旦受理されるとあとから取消や変更はできません。
- ③ 繰り上げて年金を受けた後、就職して厚生年金などに加入するとその間は支給が停止されます。
- ④ 繰り上げて年金を受けてしまうと、その後事故や病気で障害をもつ場合でも障害基礎年金を受けることはできません。
- ⑤ 繰り上げて年金を受けた後、夫の死亡により遺族基礎年金の権利が発生しても、六十五歳になるまでの間は、繰り上げ支給の老齢基礎年金とどちらか一方の年金しか受けられません。

繰り上げ請求したことを後悔するものないように、事前によく考えてから請求をして下さい。

▼国民年金についての

お問い合わせは、  
役場 住民福祉課 年金係  
まで  
☎ 六二二二二二  
(内線七二)

③ 繰り上げて年金を受けた



## ふるさと探見ツアー 参加者募集

あなたの友だちに市浦を  
紹介してください。

市浦をまだ見ぬ人のために、すばらしい「田舎」を持ちたい人のために皆さんの友人・知人にこの企画を教えてください。もちろん、あなた自身でもOK!

◆期 日 平成12年10月8日(日)から10日(火)まで2泊3日

◆会 場 青森県北津軽郡市浦村

◆対 象 羽田空港集合のため関東地区にお住まいの方

◆内 容

- 体験…シジミ漁・農作業体験、きのこ採り、磯釣り、陶芸教室、ヒバを使った木工品の製作など
- 交流…津軽弁講座、地元イベント参加、レセプションパーティー・民泊 など
- 観光…太宰治の生家「斜陽館」、今年オープンした「三味線会館」風の岬「龍飛崎」と「青函トンネル記念館」、青森の味覚と出会う「駅前市場」と「青森県物産館」

◆募集人員 30名(応募多数の場合は抽選とさせていただきます)

◆参加料 40,000円(往復航空運賃・入館料等)

◆申込み・問い合わせ

市浦村役場経済観光課「ふるさと探見」係へ電話でお申し込みください。  
☎0173-62-2111(内線29-30)

## 青森県看護協会からの お知らせ

### 看護力再開発講習会参加者募集

◆日 時 11月6日(月)～10日(金)  
9:00～16:00

◆場 所

講義 県民福祉プラザ3階(青森市)2日間

実習 国立弘前病院・老人保健施設3日間

◆対 象 保健婦(士)・助産婦・看護婦(士)・准看護婦(士)の免許所有者で現在就業していない方。

◆内 容 最新の医療と看護についての講義と実習。

◆参加料 無料

◆申込方法 はがきかファックスで、郵便番号・住所・氏名・年齢・性別・免許資格・電話番号・白衣サイズを記入の上お申込み下さい。

▶申込締切日 10月20日(金)まで  
〒030-0822 青森市中央3-20-30  
県民福祉プラザ3F  
青森県ナースセンター

TEL017-723-4580

FAX017-735-3836

## 交通事故にあつたら すぐに相談所へ

●突然、交通事故に遭うと慌ててしまいます。

●損害賠償の請求などについて、どうしたらよいか戸惑うのは当然です。

●こんな時は、1日でも早く県の交通事故相談所にご相談ください。

●相談所では専門の相談員や弁護士が無料で相談にあたっています。

●電話や手紙での相談も受け付けています。

※相談は無料です。

【青森県交通事故相談所】

◆本 所 県庁舎北棟1階

青森市長島1-1-1

☎017-734-9235(直通)

☎017-722-1111(内線3670～1)

◆弘前支所 県合同庁舎別館3階

弘前市蔵主町4

☎0172-36-8721(直通)

☎0172-32-1131(内線213)

◆八戸支所 県合同庁舎2階

八戸市尻内町鶴田7

☎0178-27-7006(直通)

☎0178-27-5111(内線313)

▶相談時間

1月～金曜日 午前9時～午後4時

(土曜・日曜・休日は除く)

## 1億?千?百?十?万?千?百?十?人

「?」を埋めるのは、この国に暮らす私たち一人一人です。～10月1日 国勢調査

あなたの調査票には日本の大切な未来がまつまっています。



10月1日、国勢調査を全国いっせいにやります。国勢調査は、日本に住んでいるすべての人を対象とした大規模な統計調査です。特に今回は、開国に迫った21世紀の国の施策やまちづくりのための基礎資料を得るための大切な調査になります。調査する項目は、男女の別、出生の年月、就業状態、通勤・通学地、住居の種類などです。調査内容が、他にめられたり、統計以外の目的に使われることは絶対にありません。調査員が調査票を持ってうかがいます。未来のために、10月1日のあなたを記入して下さい。



総務庁統計局 青森県

## 県内の交通事故概況

			青森県交通対策協議会	
	7月	累計	死者のうちの累計	飲酒運転による死者
発生	752件 (788)	4,978件 (4,703)		14 (17)
死者	2人 (14)	66人 (60)		23 (26)
傷者	954人 (924)	6,237人 (5,662)		39 (31)
				22 (20)

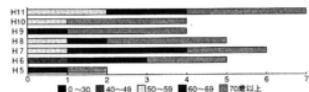
( )内は前年。累計は1月から。

# 健康への道

No.139

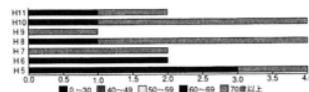
【表A】年代別死亡数の推移（悪性新生物）

年代(男性)	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11
0～39							
40～49		1					
50～59			1	1		1	2
60～69	1	2	3	1	1	1	2
70歳以上	1	2	2	3	3	3	3
合計	2	5	6	5	4	4	7



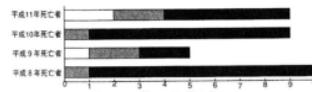
【表B】年代別死亡数の推移（悪性新生物）

年代(女性)	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11
0～39							
40～49							
50～59						1	1
60～69	3	2		1	3	3	1
70歳以上	1	2	2	3	3	3	1
合計	4	2	2	4	1	4	2



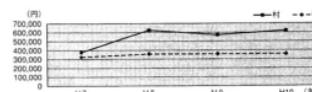
【表C】悪性新生物による死亡者の健康受診状況

項目	継続受診	隔年受診	未受診	合計
平成8年死亡者	1	9	10	
平成9年死亡者	1	2	2	5
平成10年死亡者	2	1	8	9
平成11年死亡者	2	2	5	9
合計	3	6	24	33



【表D】一人あたり医療費（退職者医療）

	H7	H8	H9	H10
鹿	311,748	354,347	348,605	347,251
村	368,768	635,296	581,007	609,709



暑い夏も過ぎ、食べ物もおいしくより体を動かしやすい季節になりました。  
 そこで今回は、「健康づくり」について少し考えてみましょう。普段、何気なく聞く「健康づくり」―皆さんはどうお考えでしょうか。  
 「健康づくり」は、自分自身

①村内のガン（悪性新生物）以降ガン）死亡は、男女ともに増加傾向にあります。その中  
**村内の死亡状況からみたガン死亡の傾向**  
 村内の死亡状況から見てみると、未受診の死亡者が全体の七割以上を占めているなど、健診受診されていない方が多いことが見受けられます（表C）。男女別に見てもその差は歴然でした。

②ガン死亡の人の健診受診状況を見てみると、未受診の死亡者が全体の七割以上を占めているなど、健診受診されていない方が多いことが見受けられます（表C）。男女別に見てもその差は歴然でした。

個人一人ひとりの健康管理も大切ですが、こうしてみると村民の一人として、お互いに健康かに生活していくために必要になって見られるのではないのでしょうか。自分のためにだけの健康づくりも含め、何が必要か考えていくことが大切になると思います。

で取り組んでいくものと、それだけでなく一つの集団として取り組む必要のあるものの二つがあると思います。  
 それでは、一つの集団①村として大切な健康づくり、予防活動について村の現状を紹介してみよう。  
**ガン死亡の内の健診受診状況**  
 でも、男性は女性に比べ若い年齢層での発病が多いことが分かります。（表A、B）

③加えて、一つの目安として、退職者医療費を見てみると、県との比較差は明確です（表D）。退職者医療費の増加つまり、退職するまでの健康管理が不十分な過程が、この結果を出しているのです。

## 村の様子から考える健康づくり



### お誕生

横山 侑海（脇元） 淳一  
 中村 勉（脇元） 清道  
 石岡 唯（相内） 幸彦  
 藤本 夏海（相内） 浩美

### ご結婚

（対馬龍）一（木造）  
 （成田）恵（脇元）  
 （佐野）順二（宮城）  
 濱田 直美（十三）

### おぐやみ

丸山 ソメ（太田） 91歳  
 石岡 武敏（脇元） 88歳  
 山田 みか（脇元） 86歳  
 三浦 金松（相内） 77歳

## あとながき

暑い夏も終わり、これから一番いかに涼しく過ごすか、今年には秋の訪れとともに、五年に一度の国勢調査が全国一斉に行われます。村民のみさんの調査へのご協力をお願いします。（三不）